

ぱちんこ 言葉物語

①

遅れ

今月のぱちんこ言葉物語のテーマは主にパチスロで使われる「遅れ」です。この言葉も業界外の方と話をすると「何故そんな目立たない演出がアツいのか」という質問攻めにあう言葉の一つです。今もおスロットユーザーの心を惹き付けて離さないこの「遅れ」とはどのようなものなのでしょうか。
微妙な感覚のずれが

「遅れ」とは、現在では主にリールの始動やストップ動作と連動するはずの効果音が一瞬だけ遅れる演出を指します。この演出がメジャーになった契機はやはり「トロピカーナ7X（1・5号機）」と「アメリカナ7X（1号機）」でしょう。

これら機種ではリールが一瞬引っかけたような感じであり、リールが始動することでもボーナスを察知し、ユーザーはその動作を見て「遅れた」と感じるわけです。

特にアメリカナではウェイト機能が無かったため、「遅れ」をより察知しやすくなるためにユーザーは皆レバーを強打していました。その後アメリカナは1・5号機移行により遅れを察知する事は極めて困難になってしまいましたがトロピカーナ7Xでは標準搭載され人気を博します。

さて、これら機種の「遅れ」は昨今の機種と比較しても微妙でした。体的には0・1秒あるかないかという程度の感覚で、じっとリールの始動と効果音を研ぎ澄ませて見聞きしていないと分からない人も多いほどでした。そのためホールによってはボーナス成立時に台ランプ（当時ではパトライト）が一瞬光るなどの対応をしていたホールも多くありました。

音の遅れに進化して

その後、この「遅れ」は現代の機種でも脈々と受け継がれる演出となりました。現在でも有名なのは「花火」「大花火」の遅れ（大花火ではスタート音が延びたように聞こえるので「間延び」と言われた）です。

両機種とも発生し小役 or ボーナスとなり、ストップボタンを押す力も必然と入りました。そして4号機以降は多

くの機種にこの「遅れ」機能を搭載した機種が登場し、そのままボーナス確定や小役否定でボーナス確定、はたまたユーザーが打っている遊技機の状態を示唆するなど、現在でもその機能を搭載している遊技機では重要演出の1つとして使われるようになりました。

時代を超える 潔い演出

特にスロットでは演出の「潔さ」が長期に渡り記憶に刻まれる傾向にあるよう

です。昨今では液晶演出の台頭により複雑化した演出フローですが、この演出は「遅れ」激アツ」と図式は非常に簡単。それはパチンコで言うなら「海物語」魚群「激アツ」と言った感じでしょうか。複雑化した演出は時としてユーザーの記憶から去ってしまうことも多くあるのではと思えてくるのです。それは過去の「名機」として語られる機種の多くに「遅れ」をはじめとした潔い演出が、現在でもユーザー達が居酒屋で話の肴に良く登場してくる事からも分かります。確かに時代は移行

シンプルだけど、それゆえに

き、パチンコ・スロットはよりエンタティメント性を求められる傾向にある事は事実であると思います。しかし人間は、時として過剰にお膳立てされたものよりもシンプルさ故に美しいと判断する価値観を持っています。それ故に、現在でもなお、演出として多くの機種で採用されるのでしょうか。そして、やっぱりパチスロはリールを自らの手で止めるから楽しいのだなど、この演出を見るとしみじみと感じるので

（広報委員会・大和田敏男）



写真：大花火
大花火打ちではスタート音の変化（間延び）が判別出来るほど前の大花火打ちと言われるほど微妙な音ずれだった



写真：トロピカーナ7X
スタートの「遅れ」が大人気となる